

007

**能登半島地震における
陸・空・海路を活用した
迅速かつ有効な被災地支援の実施**

取組主体		
特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン		
従業員数	想定災害	実施地域
614人	全般	石川県珠洲市

能登半島地震において、民間団体主導のチームでありながら、陸路、空路、海路を活用して、迅速な情報収集、救急・捜索活動、医療支援活動、物資輸送による被災地支援を実施した。

1 取組の概要

- ・特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンは、1996年に設立された日本発祥の国際NGOである。国内外問わず、世界41の国と地域において、自然災害や紛争、貧困などによる人道危機や生活の危機にさらされた方々、累計2,600万人以上を支援してきた。災害支援事業にも注力しており、平時の活動としては、災害時に向けた人材の確保・育成や地域医療などを実施している。
- ・2024年1月に発生した能登半島地震では、地震発生の一報を受け、医師、看護師、レスキュー隊員、救助犬チームから成る緊急支援チームを結成。陸路と空路を活用して発災直後に現地入りし、情報収集や医療支援、物資支援、避難所支援など、被災地の状況に応じた支援を実施した。こうした支援活動においては、行政や企業を巻き込んだ多機関連携災害時医療救助訓練の内容が生かされた。
- ・また、道路が寸断され、陸路による物資供給が困難な状況により物資不足が深刻化していたため、海路による物資輸送を決定し、所有する船舶「豊島丸」を活用して被災地への支援を継続的に行った。元日に発生した地震であったが、迅速な対応により1月5日には「豊島丸」が珠洲市飯田港に到着し、物資を被災地に届けることができた。



傷病者対応・診療などの医療支援

「豊島丸」を通じた物資支援の様子

2 取組のきっかけと想い

- ・同法人が災害支援を始めたきっかけは、2007年に発生した新潟県中越沖地震において支援活動を始めたことである。その後、2011年に発生した東日本大震災や2016年に発生した熊本地震など、国内外の災害において支援を展開し、2018年に発生した西日本豪雨の際に医療支援の重要性を痛感したことから、2019年12月には、医師だけでなく看護師も含めたチーム「空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”」を結成した。2020年には新型コロナウイルス感染症のクラスター対策にも対応できる体制を構築し、支援を行った。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

陸路・空路・海路を駆使した迅速かつ多角的な支援

- ・同法人は、ヘリコプターや災害医療支援専門の船舶「Power of Change」や「豊島丸」を所有しており、陸路が遮断された状況下でも他の手段を用いて被災地にアクセスできる体制を持つ。能登半島地震では、この「豊島丸」を活用し、海路から物資を輸送したり、支援人員の宿泊場所として利用したりした。陸・海・空の全ての経路を駆使して支援活動を展開できる体制は大きな特徴である。

過去の経験と継続的な訓練による迅速な対応

- ・行政や企業を巻き込んだ多機関連携災害時医療救助訓練を毎年開催し、2024年11月には5回目の訓練を実施した。これらの訓練により、テントでの生活、野外病院の設営、医療支援の手順など、実際の現場に必要なスキルを習得している。能登半島地震においては、被災地のインフラが機能しなかったため支援者にとっても過酷な現場となったが、多機関連携災害時医療救助訓練における経験が生き、迅速に支援活動を開始することができた。

登録隊員制度による支援者の確保

- ・独自の登録隊員制度により、同法人の支援チームと共に現地で活動できる支援人員を確保している。現在では約1,000人の登録者がおり、この制度により、実際に66人が能登半島地震の支援に参加した。

4 取組の効果

迅速な救助・医療支援の実現

- ・同法人は、能登半島地震の発災直後に緊急支援チームを編成し、倒壊家屋からの救助や避難所での医療支援を迅速に開始した。その中で、発災から124時間後に90代の女性を倒壊家屋から救出した。また、避難所での診療や衛生管理指導を行い、地域全体の医療体制の復旧支援も実施した。

物資支援の円滑な実施

- ・海路を利用した物資輸送により、道路が寸断された被災地への物資供給を可能にした。「豊島丸」を活用し、企業とも連携して灯油、食料、衛生用品など現地で必要な物資を調達の上、避難所や自宅で生活している被災者に配布した。また、災害時に使える浄水装置を所有する2つの企業と連携し、給水支援を実施した。1日に約6,000リットルの飲み水を供給したことに加えて、自衛隊が各避難所に設置した風呂やトイレの洗浄水として、1日最大1,600人分の生活用水を供給し、被災者の生活環境の改善に大きく貢献した。

周囲の声

- ・「被災後はどうなるか不安であったが、ピースウィンズ・ジャパンの皆様が来るたびに『大丈夫だよ』と言ってくれ、本当に安心できた。感謝している」（支援を受けた被災地の方）
- ・「ピースウィンズ・ジャパンのメンバーがそばで悩みを聞き、一緒に考えてくれたことはとても心強く、今でも大きな支えとなっている」（支援を受けた被災地の方）
- ・「発災当時、地震の揺れや海水が引いている状況に動揺していたが、ピースウィンズ・ジャパンのメンバーから『すぐ行くので落ち着いてほしい』と連絡があり、翌日に彼らの顔を見た瞬間にほっとして涙が出た。本当に助けに来てくれたのだと安心できた」（自治体職員）

担当者の声

- ・災害支援においては、支援が十分にできなかったという後悔は必ずあると思います。そうした後悔を生かして、次の災害ではより支援できるような体制をつくっていくことが重要だと思います。災害支援には様々な課題がありますが、訓練や経験を積み重ね、さらなる支援の強化を目指していきたいと思っています。また、正しい現地の状況や被災者の声などを広く皆様にお伝えできるよう、広報活動もより強化してまいります。

問合せ先

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン 法人番号：2010005017549
 電話番号：0847-89-0885 FAX：0847-82-2949
 E-Mail：meet@peace-winds.org URL：https://peace-winds.org/

動画



サイト URL

